

協議内容のとりまとめに対する意見

9/24（火）に各懇談会委員の皆様へ素案（懇談会協議内容のとりまとめ）を送付させていただきました。意見書として提出された内容をできるだけ反映させました。しかし、意見の中には、構成に関わる内容や事務局への意見などがありましたので以下のとおり報告いたします。

意見①

（1）地域づくり推進の基本的なプロセスについて

総数 108 校に対し過半数が既に中長期的な視点から、早急に課題に対し取り組まなければならないものと考えますが、優先する中学校区は具体的にどう考えているのか大まかでもストーリー（タイムスケジュール）を明確にしておかないと、具体的な展開ができなくなるのではないかと危惧します。

（2）地域づくり推進に向けた検討体制について

優先する学区を選定し順次検討を実施するとなると、検討に時間差が生じ、有効な意見交換の場ができにくくなるのが懸念されますが、どうお考えでしょうか。

以上の2点を踏まえると、知見を得るため数例を先行実施するのはやむを得ないとしても、それらの知見を元に、その後も速やかに一斉に実施すべきではないかと考えます。

意見②

（1）ソフト・ハードを一体的に考えた地域づくりについて

学校施設の再編に関する考え方が本文に入らず、3つの視点となっていることは望ましくないため、以下の文案を本文に追加し、3つの視点の図表を削除する。

*（5）地域における学校施設について（項目を一つ追加）

学校施設は、子どもの学びの場としての役割とともに、子どもの居場所や地域の避難所など、地域コミュニティの拠点としての役割も担っています。そのために学校を適正に配置し、地域の子どもは地域で育てる体制を作っていきます。一方で、各学校が充実した教育活動を行うためには、一定の学校規模となるように配慮することも必要です。

「市立小・中学校の適正配置に関する基本方針（平成21年1月）」に示されている望ましい学校規模（小中学校では、12～18学級）や通学距離（上限は小中学校も概ね30分程度、通学距離は概ね2km）を基本としながら、地域の実情に応じて学校の配置を検討していきます。

学校によっては老朽化により耐用年数が迫っており、「改築」や「長寿命化を図るための改修」を早期に実施しなければならない状況にあります。安全・安心な施設、教育環境の向上を目指すためにも、基本的に、建築年度の古い順に「改築」、

または「長寿命化を図るための改修」を実施します。

実施にあたっては、「八王子市公共施設マネジメント基本方針」に基づき、「改築」や「長寿命化を図るための改修」の際には、原則、小中一体型やその他公共施設などの複合化を図り、学校が地域コミュニティの拠点となるように整備します。本市ではすべての小・中学校で小中一貫教育を推進していることから、義務教育学校制度の導入も視野に入れた小中一体型への整備を検討していきます。

図表●は学校施設の複合化のイメージを例示したものです。

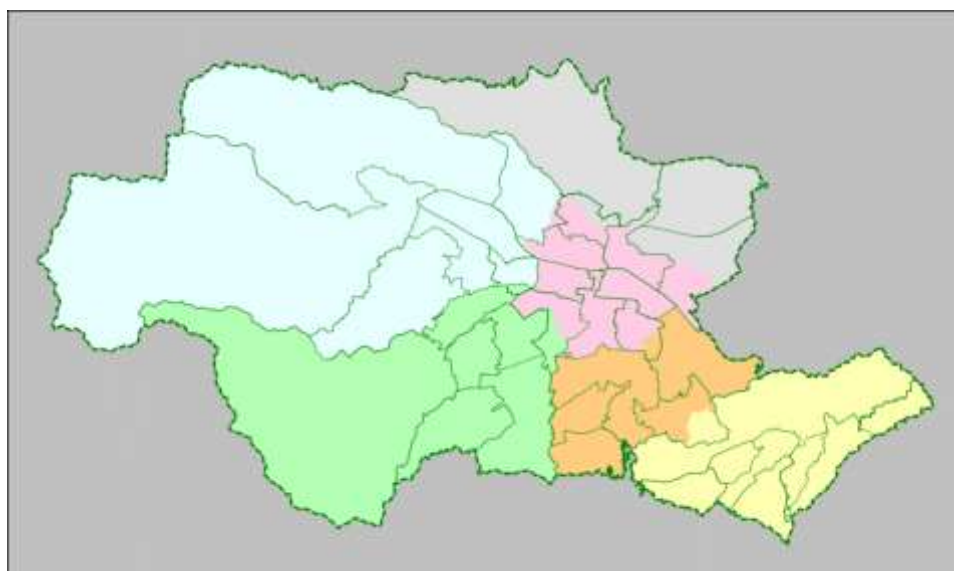
<改訂の理由>

- ・この視点の中の文は、主述がねじれている文が多く、あいまいである。明記する部分は、はっきりと言い切り、検討すべきことは検討課題として示すべきである。
- ・学校の役割として、地域コミュニティの拠点という表現に統一した。
- ・地域の子どもは地域で育てるというのは、最終的な目的なので、それが分かるように文を再構成した。
- ・「単独での建替えは行いません。」という内容が、「改築」のみを示すのか、「長寿命化を図るための改修」までを含むのかがあいまいであり、この部分だけ否定形で違和感が強いので、複合化することを強調する形に変更した。
- ・地域コミュニティの拠点としての学校の役割とそのための配置についてを前半に、学校の改築、改修に関する記述を後半にまとめなおした。
- ・本文になるので、語尾をですます調にあらためた。

意見③

(1) 地域づくりの対象圏域について

図表1を6圏域に区切って(太線などで)表現した方がよいのではないか。



* 下地に6圏域を入れました。図表1はどちらを使用するか。